

5月26日に、今年度1件目の事故（傷害事故）が発生しました。

スーパーでの検品作業中、プラスチック製の空き箱を台車で運搬する際、何段も積み重なった空き箱が台車に乗りきれでなかったため、空き箱を持ち上げ位置を整えようとしたところ、空き箱と台車の間に指を挟み右手中指を骨折した。



この事故により、連続無事故記録は72日間でストップしました。

現在、令和4年度の事故件数は、傷害事故1件、物損事故0件の計1件です。

今年度も始まったばかりです。事故を起こさない、巻き込まれないように注意し、就業に努めましょう。

また、梅雨本番の6月に入ります。気温も湿度も上昇して不快に感じる時期になります。熱中症を予防するため室内ではエアコンを使うなど温湿度の上がりすぎを防ぎ、こまめな休憩や水分・塩分補給で体温が上がりすぎないように注意しましょう。

外での作業では、蜂に注意！！

これからの季節、蜂が活発になってきます。

蜂に刺されるとアナフィラキシーショックを起こし、最悪の場合死にいたることもあります。

外で作業を行う場合は、周りに蜂がいないか、巣がないか、草などが生い茂っている所には水をかけるなどして確認を行ってから作業に取りかかりましょう。

熱中症に注意しよう！

熱中症は、高温多湿な環境に長時間いることで、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。

屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。

屋内、屋外に関係なく、水分・塩分補給、休憩を適度に取りながら就業に努め体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

埼玉県では自転車保険への加入が義務になっています。(平成30年4月1日施行)

自動車保険や火災保険等に自転車特約が組み込まれている場合があります。

一度、自身の保険内容を見直してみましょう。

もし、自転車保険に未加入の場合や、加入している保険に自転車特約が組み込まれていない場合は、速やかに自転車保険に加入しましょう。

センター入会時に加入するシルバー保険では、就業中や就業途上でも、自転車による賠償事故は、対人(相手方)への賠償は対象外です！

運転技能検査

5月13日から一定の違反歴のある75歳以上のドライバーに対して免許更新時の「運転技能検査」が始まります。

- ・免許更新直近の誕生日の160日前から過去3年以内に一定の違反のあった人が対象
- ・免許更新期限の6か月前から運転免許試験場などで合格するまで何度でも検査が受けられる。
- ・安全運転サポート車（サポカー）限定の免許制度が新設されます。⇒ 衝突防止機能などを備えた車の運転に限定することで運転誤操作による事故を防止します。

運転免許の自主返納を考えている方

- ・申請は埼玉県警察運転免許センターまたは各警察署で受けています。
- ・交付手数料（1,000円）を支払えば運転免許証に代わる「運転経歴証明書」を取得することが出来ます。
- ・運転免許証自主返納をサポートする「シルバー・サポーター制度」があり、運転経歴証明書を提示するとタクシー料金の割引など、協賛事業所の様々な特典が受けられます。
- ・シルバー・サポーター制度に関する問い合わせは、埼玉県警察本部 交通総務課
《電話▶048-832-0110 (代) 5056・5058 平日8:30～17:15》

大地震に備える

東日本大震災の発生をうけ、地震研究の専門家から「予測は不可能」との見解が示されている一方、今後30年間に首都圏で大地震が発生する確率は70%程度とも言われています。

「備えあれば憂いなし」 今一度、我が家の備えを確認しておきましょう。

(1) 緊急連絡と避難先

- ① 家族などの連絡先は書き出してあるか（名前、連絡電話番号、血液型、連絡方法など）
- ② 緊急連絡先は書き出してあるか（市役所、近隣の交番、電気、ガス、水道、電話）
- ③ 避難場所は書き出してあるか（場所と名称、避難経路、注意すべきことなど）

(2) 我が家の備え

- ① 生活（最低限の水(3ℓ×人数)、食べ物(3日分)）
- ② 安全（常備薬、救急医薬品、マスク、軍手、帽子の用意 / 浴槽の水を貯めておく、貴重品（印鑑、通帳、身分証明書類、現金）
- ④ あると便利（マッチ、懐中電灯、ビニール袋、ビニールシート、携帯ラジオ、予備電池）
- ⑤ 危険要素の減（タンスや家具の上に重いものを乗せない、テレビの下に滑り止めシート）

(3) 家の外の備え

- ① クルマ（常に燃料はできるだけ多くしておく）
- ② コミュニケーション（自治会の防災訓練などに参加し、お互い顔見知りになる）
- ③ 避難先の確認（一度、我が家から避難先まで歩いて、どのような施設か確認しておく）

(4) 大地震が発生したら

- ① 家の中（机の下に入る、クッションで頭を守る、家具から離れる、外に出ない）
揺れがおさまったら（家族の安否確認、ブレーカーを落とす、ガスの元栓を閉める）
- ② 家の外（バッグや腕で頭を守る、ブロック塀や自販機から離れる、手すり・つり革に掴む）
揺れがおさまったら（乗務員や誘導員の指示に従う、家族と安否の確認）
- ③ クルマの運転中（ゆっくり減速停車、道路の損壊などで動かせない状況ならキーを付けたままクルマから離れる）